

令和6年4月1日

令和6年度 江南小学校経営方針

校長 藤田 滋

1 はじめに

これからの小学校教育が目指す方向

「令和の日本型教育」では、子どものパートにおいて、多様化が進む子どもたちのすべてに基礎的・基本的な知識・技能などを確実に習得させるためには、個々の子どもに応じた学習活動を提供することで、主体的に学習を最適化する「学習の個別化」の重要性が述べられている。これら、「個に応じた指導」（「指導の個別化」と「学習の個性化」）、「個別最適化した学び」が重要であることが述べられている。

また、学校ならではの協働的な学び合いや地域を始めたような他者と協同して主体的に実社会の課題を解決しようとする探求的な学び、体験活動を通じた「協働的な学び」が重要であることも述べている。

これらを通して、一人一人の児童が、将来、自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の作り手となることができるようにする力を培うことが求められている。

OECDのこれからの時代の教育を考えるプロジェクトでは、子ども一人一人の幸せ、ウェルビーイング(WELL-being)の実現のためには子どもが「自ら主体的に目標を設定し、見直しをもって、行動し、振り返る」プロセスが重要であり、その積み重ねを通して、「責任を引き受ける、新たな価値を創造する、対立や緊張や葛藤の折り合いをつける」といった資質・能力が、これから求められる資質・能力として育つとされている。

江南小学校が目指す方向

教育目標で扱う「かがやき」とは『「喜び」と「楽しさ」を感得し、安心とともにたくましく過ごしている状態』とする。この状態を常態化するための基盤は「安心感」である。子ども自身が安全で安心であることを実感している環境で子どもは思いや考えを表現でき、失敗を恐れることなく探求することができる。こうした子どもの姿を実現するには「しっかり見ようとする」「分かろうとする」といった児童理解に努める教師のいる環境が重要である。また「支持的風土のある集団づくり」が重要である。教師や友達に親しみをもつこと、そして親しみが大きければ大きいほど、子どもの活動は活性化する。

江南小学校が目指す資質・能力「認める」「挑む」「考える」の育成には、江南小学校の職員は、気持ちを一つにして、一人ひとりが自分の持ち場で役割を果たしながら、認め合い、支え合い、高め合う職員集団であると信じる。本年度も、職員一人一人の柔軟な発想と行動力を結集し、全職員が気持ちを一つにして、挑戦し夢をかなえ「WELL-being」を実現する。

2 教育目標と重点目標

教育目標 かがやけ 太陽の子 「やさしく かしく たくましく」の実現

令和6年度新潟市立江南小学校「今をかがやけ未来もかがやけ」ビジョンに基づき、教育目標の実現を目指す。

重点目標 みがく 自己の成長を目指して自分や周りを大切にできる子ども

のばす 友達とかかわり認め合いながら進んで考える子ども

きたえる 互いを認め合う中で自ら考えて健康習慣づくりや運動に挑む子ども

3 育みたい資質・能力



4 実現のために大切にしたいこと

- (1) 職員は、新しい教育ビジョンの具現に向け、小さな新しいことに挑戦する。
- (2) 学級 ○人間関係づくり 子どもと子ども 子どもと教師
○学級だより(月1~2枚以上)
※ 授業や活動で見られた子どもの姿を目指す資質・能力の観点から意味付け・価値付け、認める内容を盛り込む
○学級づくり「出会いで担任方針「頑張る目指すこと」「絶対に許さないこと」など
- (3) 授業 ○「学習課題の設定」「まとめ」、授業づくり研修
- (4) 規律 ○学習や生活において継続して取り組むこと、大切にしながら高めていくこと
- (5) 挨拶・清掃
○指導の徹底と率先垂範
- (6) 保護者・地域との連携、校種間連携(小中・幼保こ小:架け橋プログラム)
○連絡帳ではなく電話、電話より面談での誠実な連絡・伝達・相談、お便り
○「石山の教育」の共有・協働
○スタートカリキュラムの実質化・幼保こ小との共有化を
- (7) いじめ対応
○支持的風土の醸成、人間関係づくり
○生徒指導は初期対応(速報と即共有、正確かつ迅速な事実確認を組織的対応)
- (8) 適切な目標を持たせ、その振り返りを大切にしていける取組
○学習、運動・健康(生活習慣、運動のめあて、給食等)
- (9) 安心・安全な環境づくりと適切で迅速な対応
○安全点検、首から上のけがの対応(報告と保護者対応)
- (10) 働き方改革
○ライフワークバランス、お互い様

子どもの「大好き」を一緒にたくさん作っていきましょう